©錦城高校新聞委員会編集室 2017

錦城高校新聞
題字 井口 文章
再刊 第２２８号
印刷・発行
錦城高等学校新聞委員会
みんなでつくる錦城高校新聞

一面：2年生、校外学習で東京を満喫！
空手道部、関東大会へ出場を決める
二面：錦城へようこそ！新任の先生インタビュー
3年生、大学説明会で進路を考える

文化の宝庫・東京を知り尽くせ
2年生恒例の校外学習

５月２日（火）に２年生の校外学習が行われた。指定見学場所である上野・浅草・築地・葛西・お台場の５つのエリアを中心に、全72班がそれぞれ見学コースを企画し、人気の観光地や美術館、博物館などを訪れ、楽しみながらクラスの親睦を深めた。

（２年生共同取材）

国立科学博物館近くのクジラのモニュメント前にて班員みんな笑顔でハイチーズ

東京スカイツリー

地上からエレベーターで昇ることわずか50秒。フロア３４５１・２m地点まで登った生徒は「本当に空の上にいるみたいだった」と嬉しそうに話していた。

４５０mからの絶景を堪能

５０からは春霞のためか富士山はよく見えなかったが、近くの葛西臨海公園や東京ディズニーリゾート、東京ドームなどを見つけた生徒は「あそこに見える！」と歓声を上げていた。

同フロア内の「SKYTREE CAFE」では様々なドリンクと共に、スカイツリーが描かれたモナカ付きの「スカイソフト」が販売されており、景色を楽しみながら味わう生徒も多かった。

経路の最後にガラス床の上を通る際には、足下に小さく見えるビルが高さを実感させ、感嘆の声や悲鳴が飛び交っていた。最高到達点であるスカイツリーの座って聞いていた。

築地本願寺・場外市場

築地駅から徒歩１分の築地本願寺ではちょうどお経が読まれており、偶然居合わせたいくつかの班は本堂の椅子に

築地場外市場に並ぶ魚介類

築地場外市場は前に進むことも困難なほど多くの観光客で賑わっていた。スーパーなどでは見ることのできない食材が並んでいた。

昼食には多くの生徒がたくさんのネタが入った海鮮丼に舌鼓を打っていた。「築地は人が多くて大変だったけれど、美味しい食べ物や他の場所にはない活気があって楽しかった」と感想を話す。

修学旅行を見据えて

校外学習チーフの甘來先生によると今回の校外学習では、浅草に行った班が多かったが、中にはアミューズメントパークに行った班もいたという。「もっと文化的なところに行ってほしかった」と先生に行ってほしかった」と先生は振り返る。

当日は大きな事故はなかったが、最後の集合時間に遅れた班があったことで、全体の解散が30分延びてしまった。甘來先生はそのことを、２月の修学旅行の課題点だと話す。「自分の行動に責任を待つようにしましょう」。

今回の反省を生かして

今回、クラスの仲を深めることができ、自ら行動計画を立てて実行できたことは大きな収穫であった。

しかし、当初の目的を見失う、最後の集合時間に遅れるなどといった学校行事としての目的を意識できていない場面も多々あった。来年の二月には修学旅行もあり、事故の多い雪山でのスキーは命を失いかねない。自分の行動に責任を持つことが求められる。

そういった「これから」に向け、今回の校外学習についてしっかり反省し、親睦を深められた友人たちと学校生活を

開演前に笑顔で記念撮影

圧巻の演技に感動！ライオンキング

５月２日（火）、３年生は港区浜松町にある四季劇場「春」にたどり着く。そこで新たな仲間ティモンとプンバァに出会い「ハクナ・マタタ（くよくよするな）」という言葉の力で立ち直る。やがて大人になり、ナラから故郷の危機を聞いた際は観客から驚きの声が上がった。会場中に響く迫力満点の歌声に観客は皆聴き入っていた。ジャングルで過ごす場面では、シンバと仲間達の愉快なやり取りに時には笑いが、時には拍手が沸く。体を動かす動物も、踊る植物も役者の見せ場だ。ステージの左右だけではなく、場内後方からもサバンナに生きる鳥、サイ、キリンなどが次々に勢いよく登場した。ひときわ存在感を放つ大きなゾウが登場した際は観客から驚きの声が上がった。会場中に響く迫力満点の歌声に観客は皆聴き入っていた。ジャングルで過ごす場面では、シンバと仲間達の愉快なやり取りに時には笑いが、時には拍手が沸く。体を動かす動物も、踊る植物も役者がまるで本物のように演じている。中盤以降はワイヤーを用いて空中で踊るアクロバティックな演出もみられ、観客は息を飲みながら見守った。

公演終了後は出演者たちによるカーテンコールが何度も行われ、そのたびに盛大な拍手が送られた。

錦城生からは「すごかったね」や「動きも本物の動物みたいだった！」などの声が挙がっており、観劇を満喫した様子だった。

（菫）

空手道部、24回目の関東大会へ

空手道部は４月29日、５月３日に行われた春季大会で男子団体組手では５年ぶりの６位、女子団体形で連続４位、女子団体組手で６位の成績を収め、以上の３種目で20年連続通算24回目の関東大会に出場する。男子団体組手に出場した男子主将の小村真輝くん（３年）に話を聞いた。

空手道部は大会に出場するための練習は年明けから始め、「形」の種目に出場するメンバーを選出し、同じメンバーで動きを合わせるなどの練習をしていたそうだ。

男子団体組手は春季大会へはシード権を持っていない状態での出場だったが「組み合わせの運もあり大きく勝ち進むことができた」と小村くんは謙遜して言う。関東大会へ出場が決まった時の心境を聞くと「素直に嬉しいなと思った。先輩達がなかなか組手で表」をどう背負っていくかを錦城生に見てほしい、と全力で挑むことを誓った。

凛とした姿の男子空手道部員

今後の意気込みを尋ねると、「関東大会以外にも全国レベルの選手たちと戦う試合があるので、できる限りのことを思い切りやりたい」と熱く抱負を語った。

（加）

東京食い倒れ！

1年情報集中・薬物乱用講義
SNSの使い方を考えよう

５月２日（火）、第１体育館で１年生を対象に情報集中講義が行われた。まず情報科の芦澤先生が様々なコミュニケーションツールの利点、問題点を提示した。その後、インターネットのウイルスや悪質な投稿を監視しているスクールガーディアンの鈴井さんから、ソーシャルメディアについてとSNS利用のルールについて説明された。鈴井さんは「ルールを守る大切さを決して忘れず、ソーシャルメディアを有効活用できる大人になってください」と呼びかけた。

講義の後、芦澤先生に話を聞くと「LINEなどを使うときは互いに思いやりをもって利用してほしい」と先生。さらに、インターネットを使う上で大切な判断力を身につけるには「失敗も含め、試行錯誤しながら力をつけていければいいですね」と語った。

薬物断る勇気を持とう

情報集中講義の後に薬物乱用防止講義が行われた。警視庁青少年育成課で警部補の松丸さんを招いて、薬物乱用の危険性について幅広く学んだ。もし薬物を勧められたときには「勉強がはかどるよ」「一回くらい平気だよ」といった甘い誘いに惑わされず「いりません」「興味ありません」と断る勇気をもってほしい、と松丸さんは訴えた。

（伊・加・巴・蘭）

経験を積んで判断しましょう

むらさき草

もし国というものが人間だったら。彼らは一体どんな性格をしていることだろうか。世界各国の国々を擬人化したキャラクターが登場するコミック『Axis Powers ヘタリア』に登場するアメリカはパワフルで正義感が強く、イギリスは皮肉屋で紅茶好き。日本は物静かで真面目な性格だ。そうした「国」たちが織り成す実話や説話に基づいたストーリーが、若者に人気である▼こうした擬人化という手法を使った作品は昔からみられる。最近、スマートフォンでネットを開いていると、刀や槍を擬人化した主人公が登場する「刀剣乱舞」、第二次世界大戦期の日本軍艦を擬人化した「艦隊これくしょん（艦これ）」などの広告を見ることが多い▼人間でないものを人間になぞらえて表現すること。この擬人化を自社のPRに用いる企業もある。元々はTwitterでの呟きが擬人化され、企業のキャラクターとなったタニタ社とシャープ社による「タニタくんとシャープさん」は、漫画として書籍化までされている。自身の企業を擬人化することによって、幅広い年齢から親近感が出るのだろう▼大昔の人びとは、人間以外の存在に人間のもろもろの性質をもち込んで自然現象を理解し、説明していた。こうした考え方をアニミズム（精霊信仰）といい、世界各地に同様の信仰の形はあった。このような信仰も擬人化の基となっているのだろうか。平安時代の鳥獣戯画が貴族・僧を蛙や兎に擬人化しているように、日本にも昔から擬人化という手法を用いることがあったようだ▼最近では、政党や市区町村の擬人化もされている。人間ではない故に馴染みにくかったものも感情や人格を投影することで親しみを感じ、多くの人に受け入れられているのだろう。▼擬人化を通して、ものを身近に感じることが出来る。筆者自身、苦手だった社会科の授業が「ヘタリア」によって好きになることが出来た。５月なって授業が本格化する中、こういう勉強法もいかがだろうか。

（緋）